



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2019年5月12日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:7名(うち子ども2名)、

指導員:4名

## テーマ 「どんな外来種が見られるかな？」

春の花の季節です。川原や堤防に多く生えている外来種を中心に見て回りました。

最初によく似たブタナとヒメブタナの観察です。花の大きさと葉の毛を比べ違いを確認しました。

堤防ではオオキンケイギクの黄色が目立ちます。毎年何回か草刈が実施されているのに、さすがは特定外来生物に指定されているだけあった繁殖力が強く、なかなか減っているようには見えません。一方、以前堤防で目立ったナヨクサフジやセイヨウヒキヨモギは草刈りの効果が現れたのか消滅し、ヒサウチソウも減少したように見受けられました。しかし、今回新たにヤセウツボが出現しており、ここに生育する種が変化していることがうかがえました。

大野極楽寺公園では池に特定外来生物のオオカワヂシャとオオフサモが生えていました。この2種も繁殖力が強く、草刈はされているものの、なかなか根絶できていません。

池の近くにコメツブソメクサとコメツブウマゴヤシが隣り合って生えていました。非常によく似た小さな黄色の花を付けるマメ科の草ですが、しっかり見ると何となく雰囲気異なります。茎の細さや毛のようすも違いますが、実の形状が見分けの決め手になります。

外来種ではありませんが、ミヤマウグイスカグラの実が赤く熟していました。実の表面にも毛があり、その先端が膨れて隙になっているところがヤマウグイスカグラとの違いです。ちょっと味わってみると甘くて美味でした。その先では桜の中間の黒く熟した実を味わいましたが、こちらはちょっと苦味が強くて評判は今一つといったところでした。

さて、この日一番盛り上がったのは、中学生になった常連のT君が寝袋で捕獲したキバネツノトンボでした。翅の黄色の模様が鮮やかですが、あまり見かけることはなく、私を含め初めて見たという人も何人かいました。

138タワーパークのモクバラの池では、クロスジギンヤンマ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、クロイトトンボ、ナガサキアゲハなどが見られました。

来月はもっと多くの昆虫を見て楽しめそうです。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの> 鳥:ツバメ、キジバト、トビ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、オオヨシキリ(声)、キジ(声)ウグイス(声)、コゲラ(声) 虫:ニッポンヒゲナガハナバチ、クマバチ、ヤマトシリアゲ、アオモンイトトンボ、ナミアゲハ、モンキアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、ナミテントウ、ヒモワタカイガラムシ、カワゲラ sp その他:アメリカザリガニ、ウシガエル 花:ハルジオン、オニタビラコ、ニガナ、コウソリナ、シロツメクサ、コマツヨイグサ、マツバウンラン、ヒナギキョウ、ムラサキサギゴケ



(観察会のようす)



ヒメブタナの花の大きさ



新顔のヤセウツボ



ミヤマウグイスカグラの実



キバネツノトンボ